

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2022年8月5日(金)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2022年8月5日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【5号機タービン補機冷却水系熱交換器(C)海水側出口ドレン弁のシート漏えいについて】</p> <p>当直員が系統復旧のため、5号機タービン補機冷却水系熱交換器(C)海水入口弁を全開操作したところ、熱交換器(C)海水側出口ドレン弁より鉛筆芯2本程度のシート漏えいを確認。その後、シート漏えいによる滞留水増加防止のため、熱交換器(C)海水入口弁の全開操作を行ったところ、シート漏えい量が鉛筆芯1本程度に減少したことを確認。タービン補機冷却水系熱交換器(C)は、当該ドレン弁下流側に閉止板を取り付けることによって使用可能なため、系統運転に問題なし。</p> <p>今後、タービン補機冷却水系熱交換器点検に合わせて当該ドレン弁を点検予定。</p>	GⅢ	8月3日
2	<p>【工具センターの空調機測定用風速計定期校正における精度逸脱について】</p> <p>協力企業作業員が、工具センター貸出工具のうち空調機測定用風速計の定期校正を行った際、測定値が基準範囲の精度を逸脱していることを確認。</p> <p>当該風速計を調べたところ、風速を測定する検出部のセンサーに亀裂があることを確認。</p> <p>校正前に貸出した実績が3件(内2件使用実績あり)あるため、影響範囲を確認する。</p> <p>今後、精度を逸脱した空調機測定用風速計の検出部を交換して計器校正を実施し、再使用予定。</p>	GⅢ	8月1日
3	<p>【ろ過水・純水設備の原水配管フランジ部からの滴下について】</p> <p>当社社員が、ろ過水・純水設備の原水配管の配管ルート変更工事後の漏えい・通水確認において、原水ライン流量計前後のフランジ部付近から水の滴下を確認。</p> <p>滴下している水は、ダムからの原水であり放射性物質を含んだ水ではなく、滴下の量も少ないため、ろ過水・純水設備の運転時の環境影響はない。</p> <p>なお、滴下している下部に受けおよびホースを設置し、付近の側溝へ流れるよう処置した。</p> <p>また、滴下が発生している旨の注意表示を実施。</p> <p>今後、系統の停止に合わせて当該配管を修理予定。</p>	GⅢ	8月1日
4	<p>【免震重要棟駐車場西側エリアにおける油漏れについて】</p> <p>協力企業作業員が、免震重要棟駐車場西側エリアにて廃油缶付近より油膜を確認。</p> <p>現場を確認したところ、駐車場内に約1m×約15m、側溝内に約30cm×約30mの油膜を確認。</p> <p>原因は、仮置き中の廃油缶および養生シートに付着していた作動油が降雨により流され漏えいしたものと推定。</p> <p>漏えい箇所へ吸着マットの設置および排水路への流入箇所へ土のうを設置済み。</p> <p>当該廃油缶は、オイル受けを設置し、新たにシート養生を実施済み。</p> <p>今後、再発防止対策を検討。</p>	GⅢ	8月3日